

# 大東文化大学 東洋研究所所報

2016.6 No.65

## 目次

受験戦争の東西 大東文化大学 学長 太田 政男…1	2016年度 東洋研究所共同研究課題……………2・3
2015年度 東洋研究所共同研究班活動報告……………4・5	〔国際交流講演会〕激動の中東とイランの変革: イランは「フツウ」の国になれるか 神奈川大学アジア研究センター研究員 アブドリ・ケイワン…6

2016年度 人事・名簿……………7	東洋研究所の理念・目的 / 2015年度 会議報告…8
新刊案内……………9	2016年度 東洋研究所 公開講座のお知らせ …… 10

## 受験戦争の東西

大東文化大学 学長 太田 政男

「教養小説」と呼ばれるジャンルがある。ドイツの Bildungsroman の翻訳である。ゲーテの『ヴィルヘルム・マイスターの修行時代』などが代表とされ、人間の成長、とくに内面形成の歴史を描いた小説などを言う。しかし、「教養小説」というのは、「教養」が「教育」とほぼ同義で使われていた明治から大正時代の用語法であり、ぼくは「成長小説」とか「教育小説」と言ったほうがよいのではないかと勝手に思っている。

当然ながら、教育に関する題材、受験や受験すらできない差別についての現実についての叙述も、これは洋の東西を問わず多い。ヨーロッパでは、ヘッセの『車輪の下に』などがあるし、スタンダールの『赤と黒』もシリトーの『長距離ランナーの孤独』もそうした読み方ができよう。

戦前日本の少年期・青年期を描いた児童小説である山本有三『路傍の石』、下村湖人『次郎物語』などには旧制中学校進学をめぐる受験の影響が刻印されている。また、中野孝次『麦熟る日に』は、旧制高校や大学への受験の様相をリアルに描いていた。

しかし、その頃の受験戦争への参加はまだ国民の一部であり、ほとんどすべての人々を巻き込んで過熱するのは第二次世界大戦後のことである。学歴が人生において大きな要素となるという「学歴社会」という言葉が生まれたのも古くない。



そして、この受験戦争の激しさは、日本、中国、韓国で著しく、東アジアに共通する、世界で際立った現象である。中国では、受験戦争の季節には北京などに受験生が集中するためにホテル全体が受験一色になるという経験をした。韓国的高校では、6時間の通常授業以外に、0時限、7、8時限の授業を行っている学校も珍しくない。数年前には政府が塾の規制を行うということもあった。

どうして東アジアで受験戦争が過熱するのか。これには、儒教文化の影響を指摘する説、近代の後発生に原因を求める説もあるが、ぼくは定見を持たない。

いずれにせよ、「主体的な学び」「高大接続」が叫ばれる中で、どのような学力を育てるのが問われている。  
(文学部教育学科 教授)

## 2016年度 東洋研究所共同研究課題

第1班	東洋における異文化の本質的相違性に関する研究
	<p>期間 2016～2018年度（研究期間中）</p> <p>メンバー（8名） ㊦山田準〔主任〕 ㊦岡崎邦彦、小林春樹、田中良明 ㊦中村昭雄、田辺清、井上貴子 ㊦片岡弘次</p> <p>概要 今日の複雑な社会情勢を眺める人は、多様な価値観の存在を相互に認め合うことの必要性を痛感するであろう。地球という有限な環境の中で、多くの生命が共存する社会の在り方が模索されねばならない。本共同研究は、こうした「共生社会」の創造を視野において、東洋における異文化及び東西文化に見られる相違性を抽出することを目指している。異文化の根底にある相違性が認識されれば、相互理解への途も開けてくるであろう。21世紀における新しい社会の創造を採求して先駆的な研究を進めていきたい。</p>
第2班	20世紀・21世紀における日中関係と中国の対外抵抗・対内改革・世界大同
	<p>期間 2015～2017年度（継続）</p> <p>メンバー（20名） ㊦岡崎邦彦〔主任〕 ㊦村井信幸、田中寛、葛目知秀、高安雄一、篠永宣孝、内田知行、柴田善雅、鹿錫俊、齊藤哲郎 ㊦伊藤一彦、上野英詞、植松希久磨、嶋重弥子、由川稔、鐘屋一、江崎隆哉 ㊦小島麗逸、近藤邦康、中島宏</p> <p>概要 研究班の研究計画は3年間の短期計画と10年をかけた長期計画から構成される。まず3年間をめどに、20世紀以来の日中関係、中国の対外政策、内政、さらにそこで提起された「世界大同」の事実を検証する。20世紀中国は、帝国主義への抵抗から、建国後平和共存の五原則の提起へと対外関係（世界認識）を変化させ、また中国国内の対内改革は、民衆の自由、社会主義建設を巡って大きく変貌を遂げてきた。その間、平和共存の中国外交や人民公社などの新たな世界、社会モデルが提起され、社会の共存とそれを支える文化革命が求められてきた。これを現代中国の「世界大同」の創造の一部とみて、これを検討していくことである。さらに中国20世紀以来の対外抵抗、対内改革と日本は深く関わりをもっており、課題も多いが、日中間で「世界大同」のモデルを経済から政治、さらに文化面へと実践していくことも可能である。10年長期計画については、1921年から2021年の中国共産党史の資料整理と100年史研究を進める。</p>
第3班	諸外国における東西文化研究
	<p>期間 2014～2016年度（研究期間中）</p> <p>メンバー（6名） ㊦山田準〔主任〕 ㊦クリスチャン W. シュバング ㊦エリオット・ミルトン、フレデリック・ジラルド、マリア・キアラ・ミリオレ、クリスティーナ・ラフィン</p> <p>概要 国際交流を目的とし、諸外国における日本研究や東洋研究がどのように行われているかを各研究員の研究テーマを中心に発表し、諸外国の東西文化研究の動向と研究交流の可能性を探る。</p>
第4班	日中文学の比較文学的研究—『藝文類聚』を中心に—
	<p>期間 2014～2016年度（研究期間中）</p> <p>メンバー（10名） ㊦中林史朗〔主任〕 ㊦田中良明 ㊦日吉盛幸、浜口俊裕、小塚由博、藏中しのぶ ㊦福田俊昭、芦川敏彦、関清孝 ㊦成田守</p> <p>概要 本邦に伝来する最古の現存類書の『藝文類聚』は、我が国の古典文学に多大の影響を与えていることは周知の事実である。それが今日に至るまで雑家の書として等閑視されてきた嫌いがある。それ故、未読解の本書を訓読して、原典との校勘、典拠の解明、索引の作成をすることは、単に国文学への影響のみならず、類書学上においても大いに貢献するものであると考える。その研究成果を逐年刊行して今日に及んでおり、斯学の評価を得ている。</p>
第5班	西欧植民地主義再考
	<p>期間 2014～2016年度（研究期間中）</p> <p>メンバー（5名） ㊦山田準〔主任〕 ㊦滝口明子 ㊦岡倉登志、齋藤俊輔 ㊦生田滋</p> <p>概要 西欧植民地主義の成立、発展、思想的背景については数多くの研究がなされて来た。これら西欧植民地主義の歴史研究はヨーロッパと新大陸つまり大西洋世界、ヨーロッパと旧大陸つまりインド洋と太平洋世界を対象とし、それとは別に植民地宗主国の歴史研究が存在した。これら大西洋世界における西欧植民地主義の歴史研究からはインド洋と太平洋世界における植民地主義が見えてこない。逆にインド洋と太平洋世界における西欧植民地主義の歴史研究からは、大西洋世界の植民地主義は見えてこない。そこでこの研究班では、大西洋世界、植民地宗主国、インド洋と太平洋世界の3大研究対象を比較統合し、西欧植民地主義を再考することを目的に、いくつかの個別的研究を分担して研究しようとするものである。</p>
第6班	唐・李鳳撰『天文要録』の研究（訳注作業を中心として）
	<p>期間 2016～2018年度（研究期間中）</p> <p>メンバー（11名） ㊦小林春樹〔主任〕 ㊦田中良明 ㊦渡邊義浩、小坂眞二、小林龍彦、中村聡、中村士、細井浩志、山下克明 ㊦進藤英幸、濱久雄</p> <p>概要 『天文要録』の考察〔一〕（2011年3月）として、その第1冊（巻一）の、訳注と現代語訳を中心とした研究成果を上梓した前田尊経閣文庫蔵『天文要録』（唐・李鳳撰）に関する研究を継続する。具体的には、同書第2冊、第3冊（巻四、巻五）について同様の作業継続し、完全原稿の完成と出版を期する。</p>

第7班	茶の湯と座の文芸
	期間 2014～2016年度(研究期間中)
	メンバー(8名) 〇蔵中しのぶ〔主任〕 〇相田満、安保博史、矢ヶ崎善太郎、三田明弘、高木ゆみ子、フレデリック・ジラル、王宝平
概要	2004(平成16)年度～2006(平成18)年度日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(C)(2)「茶の湯と座の文芸の本質の研究—「茶譜」を軸とする知的体系の継承と人的ネットワーク」の成果、および2008～2011年度の東洋研究所研究班「茶の湯と座の文芸」の成果として刊行した「茶譜 巻一注釈」～「茶譜 巻七注釈」を発展的に継承すべく、江戸時代中期寛文年間の成立とされる茶道百科事典「茶譜」全十八巻の注釈研究を継続しておこなう。研究分担者は、科研費研究から継続して参加する蔵中しのぶ(日本文学・上代中古文学)、相田満(人文情報学・中古中世文学)に加えて、安保博史(日本文学・近世文学)・矢ヶ崎善太郎(建築史・茶室建築)、三田明弘(日本文学・中世文学)、パリから高木ゆみ子(日本歴史学・茶道史)を兼任研究員に、研究参加者には養生美貴子(日本文学・中古文学)、飯島英(文化人類学)、加藤泰加子・北井千鶴(裏千家茶道パリ支部)、布村(日本文学・中古文学)を加え、茶道文献を対象とした学際研究をめざす。
第8班	イラン文化圏における50年の社会・文化変容—フィールドから歴史へ—
	期間 2015～2017年度(継続)
	メンバー(11名) 〇原隆一〔主任〕 〇山田準 〇須田敏彦 〇鈴木珠里、南里浩子、林裕、斉藤正道、中村菜穂、星山幸子、アブドリ・ケイワン、吉田雄介
概要	イラン文化圏とは、現在のイラン国を中心に、周辺のアフガニスタン、タジキスタン、クルディスタンなどを含む文化圏をいう。 イラン系民族、ペルシア語系言語、太陽暦の春分を新春(Nouruz)として祝う生活リズムなどに特徴がある。ここでは「ノウルーズ文化圏」と呼びたい。それは、インド文化圏、中央アジア・トルコ文化圏、アラブ文化圏など隣接する周辺の文化圏との歴史的交流のなかで育まれたものである。また、ここでいう文化、文化圏とは、人間の生活舞台である自然生態環境、生業を基盤とした経済活動、その上に展開する社会や文化を含む総体を意味している。 本研究では、イラン文化圏を中心に置き、それをとりまく周辺の文化圏と重なりあう混合地域にも注意を払う。なかなか変わりにくい基層文化、近現代における外から押し寄せてくる西欧近代化、さらに、今日のグローバリゼーションの大波によってあわただしく変化する表層文化の動き。ここでは、基層と表層の両者の相互作用の過程が大きな変化要因として考察する。したがって、研究視座は、現在のフィールド現場から出発して過去へと時間を遡航するかたちで研究をすすめたい。 研究の第2期目にあたり、先輩たちの研究成果や手法などを総括し、自らの新しい研究視点や手法を確立し、新たな研究に挑戦していきたい。まずは、標題にあるように、「イラン文化圏における50年の社会・文化変容の研究—現場から歴史へ—」に着手する。
第9班	岡倉天心(覚三)にとっての「伝統と近代」
	期間 2015～2017年度(継続)
	メンバー(8名) 〇田辺清〔主任〕 〇宮瀧文二、篠永宣孝 〇池田久代、岡倉登志、岡本佳子、依田徹、佐藤志乃
概要	岡倉天心(1862-1913)は、幼時より漢籍とヘボン塾で英語を学び、東京開成学校に入学、1877年東京大学で政治学、理財学ならびにフェノロサについて哲学を学び、卒業後、フェノロサの日本美術研究に協力し、古美術の研究と新しい日本画の樹立を目指した。 1886年文部省の美術取調委員としてフェノロサとアメリカ経由でヨーロッパを巡り翌年帰国、東京美術学校の創設、1890年校長に就任した。 この間美術専門誌「国華」を創刊、日本絵画協会主宰、帝室技芸員選択委員、古社寺保存会委員に任ぜられ、1898年校長を辞職、橋本雅邦、横山大観、菱田春草、下村観山らと日本美術院を創設、新しい日本画を目指して美術運動をおこした。1904年(明治37)大観、春草を伴い渡米し、ボストン美術館の仕事にあたり、1905年同館の東洋部長となり、1906年ニューヨークで「茶の本」を出版、その年の末に日本美術院を茨城県五浦へ移し、大観、春草、観山らと住み、1907年文部省美術審査委員会委員となり、1908年国画玉成会を結成、1910年東京帝国大学で「泰東巧芸史」を講義した。翌年欧米旅行を行い、ハーバード大学からマスター・オブ・アーツの学位を受けた。続いて1912年インド、ヨーロッパを経て渡米し、1913年(大正2)病を得て帰国、療養に努めたが、同年9月2日新潟県赤倉山荘で没した。英文著書「東洋の理想」(1903)、「日本の覚醒(かくせい)」(1904)、「茶の本」(1906)など、外国人はもちろん、翻訳されて広く日本人にも影響を与えた。 岡倉天心研究はまだまだ研究されなければならない点があるが、本研究部会においては、岡倉天心の「伝統と近代」に着目し幅広い研究を進めていきたい。
第10班	南アジアにおける社会変動と文化変容—周縁からのアプローチ—
	期間 2014～2016年度(研究期間中)
	メンバー(6名) 〇藤田隆〔主任〕 〇須田敏彦、石田英明、井上貴子 〇片岡弘次、小尾淳
概要	南アジアは近年、経済自由化やグローバル化の流れのなかで、途上国のなかでの成長センターの一角を占めるようになったが、同時に、域内での社会経済発展の地域格差、宗派間格差、社会集団間格差、都市農村格差、所得格差が急速に拡大した。さらに、グローバル化や近代化の進行とともに、南アジア社会の家族、カースト、地域社会の態様と機能、そして人々の行動規範や価値観が大きく変化した。 この急激な社会変動は南アジアで暮らす人々の生活と文化にどのような影響を与えてきたのだろうか。本研究では、多様な民族、宗教、カースト、階級構成をもつ南アジア社会で周縁に位置付けられてきた集団(マイノリティ、少数宗派、弱者階級、下層民、サバルタン、ダリト、アーディワシー、後進階級など)を対象として、彼らと社会変動との関わりを分析する。また、彼らほどのような文学、政治、社会運動をとおして、自らの行動規範や価値観を再構成し新たなアイデンティティを模索してきたのかを、社会学や経済学を専門とする委員と歴史学、文学を専門とする委員の共同作業をとおして、総合的に研究する。

2015年度 東洋研究所共同研究班活動報告

第1班	東洋における異文化の本質的相違性に関する研究										
	No.	研究テーマ (発表・演題等)						開催日時	開催場所	参加人数	
	1	各自の研究テーマに従って、「東洋研究」原稿の準備。							メール	11名	
	2	「東洋研究」に投稿 196号田中寛、岡崎邦彦/199号小林春樹、福田俊昭、田中良明								5名	
	3	山田準による公開講座						11月19日	大東文化会館		
【備考 (刊行物等)】											
第2班	20世紀・21世紀における日中関係と中国の対外抵抗・対内改革・世界大同										
	No.	研究テーマ (発表・演題等)						開催日時	開催場所	参加人数	
	1	近藤邦康「1989年3月20日 丸山眞男・李沢厚対談について」						5月9日	大東文化会館301	15名	
	2	①田中寛「日本語の『南進』とその普及策：帝国日本の言語政策をめぐって」 ②岡崎邦彦「西安事変と周恩来——周恩來の東北軍工作」						7月18日	大東文化会館404	15名	
	3	①伊藤一彦「中国の“抗日戦争勝利70周年”をめぐり」 ②松本和久 (オブザーバー：早稲田大学)「初期満ソ国境紛争の発生と展開」						10月17日	大東文化会館404	20名	
	4	①上野英詞「『一帯一路』構想の狙いと課題——海外論調から」 ②小島親逸「中華帝国思想と中国の近況」						10月24日	大東文化会館301	21名	
	5	①岡崎邦彦「西安事変と中国共産党——事変の真相と歴史意識」 ②小島親逸「最近の (中国) 住宅事情」						3月19日	大東文化会館301	21名	
【備考 (刊行物等)】 田中寛著「戦時における日本語・日本語教育の諸相」ひつじ書房 2015年6月 鹿角俊著「蒋介石の『国際的解決』戦略：1937-1941 東方書店 2016年2月 岡崎邦彦著「西安事変と中国共産党」東洋研究所 2016年2月											
第3班	諸外国における東西文化研究										
	No.	研究テーマ (発表・演題等)						開催日時	開催場所	参加人数	
	1	ジラル先生論文執筆の打ち合わせ 196号「東洋研究」執筆							メール		
	2	ジラル先生「高野長英」についての研究交換						10月	山田研究室	2名	
【備考 (刊行物等)】											
第4班	日中文学の比較文学的研究—「藝文類聚」を中心にして—										
	No.	研究テーマ (発表・演題等)	開催日時	開催場所	参加人数	No.	研究テーマ (発表・演題等)	開催日時	開催場所	参加人数	
	1	「藝文類聚」巻89 調読	4月18日	東洋研共同研究室	8名	7	「藝文類聚」巻89 調読	10月17日	東洋研共同研究室	9名	
	2	「藝文類聚」巻89 調読	5月23日	東洋研共同研究室	7名	8	「藝文類聚」巻89 調読	11月3日	東洋研共同研究室	8名	
	3	「藝文類聚」巻89 調読	6月20日	東洋研共同研究室	9名	9	「藝文類聚」巻89 調読	11月28日	東洋研共同研究室	9名	
	4	「藝文類聚」巻89 調読	7月25日	東洋研共同研究室	8名	10	「藝文類聚」巻89 調読	12月19日	東洋研共同研究室	7名	
	5	「藝文類聚」巻89 調読	8月29日	中国学科研究スペース	7名	11	「藝文類聚」巻45 調読	1月23日	東洋研共同研究室	7名	
	6	「藝文類聚」巻89 調読	9月26日	東洋研共同研究室	9名	12	「藝文類聚」巻45 調読	2月27日	東洋研共同研究室	7名	
					13	「藝文類聚」巻45 調読	3月26日	東洋研共同研究室	11名		
【備考 (刊行物等)】「藝文類聚 (巻八十九) 調読付索引」(2016年2月25日発行)											
第5班	西欧植民地主義再考										
	No.	研究テーマ (発表・演題等)						開催日時	開催場所	参加人数	
	1	滝口先生出版報告会						4月	山田研究室	4名	
	2	齋藤先生執筆原稿報告						5月	山田研究室	2名	
	3	齋藤先生執筆原稿査読						6月	メール	3名	
	4	生田先生による公開講座						11月12日	大東文化会館		
	5	山田準による公開講座						11月19日	大東文化会館		
	6	齋藤先生執筆原稿再査読						9月	メール	3名	
【備考 (刊行物等)】齋藤俊輔著「インディア領の成立とポルトガル人の定住」(2016年3月23日発行)											

唐・李鳳撰「天文要録」の研究（訳注作業を中心として）										
No.	研究テーマ(発表・演題等)	開催日時	開催場所	聴衆	No.	研究テーマ(発表・演題等)	開催日時	開催場所	聴衆	
第6班	1	「天文要録」巻4 訓読・訳注	4月11日	東洋研共同研究室	5名	6	「天文要録」巻4 訳注原稿作成	10月31日	東洋研共同研究室	4名
	2	「天文要録」巻4 訓読・訳注	5月10日	東洋研共同研究室	4名	7	「天文要録」巻4 訳注原稿作成	11月21日	東洋研共同研究室	5名
	3	「天文要録」巻4 訓読・訳注	6月13日	東洋研共同研究室	4名	8	「天文要録」巻4 訳注原稿作成	12月12日	東洋研共同研究室	4名
	4	「天文要録」巻4 訓読・訳注	7月18日	東洋研共同研究室	6名	9	「天文要録」巻4 訳注原稿作成	1月16日	東洋研共同研究室	5名
	5	「天文要録」巻4 訳注原稿作成	9月19日	東洋研共同研究室	4名	10	「天文要録」巻4 訳注原稿作成	2月13日	東洋研共同研究室	4名
【備考(刊行物等)】小林春樹編集代表「『天文要録』の考察〔二〕」(2016年2月25日発行)										
茶の湯と座の文芸										
No.	研究テーマ(発表・演題等)	開催日時	開催場所	聴衆	No.	研究テーマ(発表・演題等)	開催日時	開催場所	聴衆	
第7班	1	茶湯行作法意得之事 附廻限	4月 毎週火曜	大東文化大学 1-0508 教室	16名	8	客人座入置合見事	6~7月	大東文化大1-0508	16名
	2	開が閉が之事 附客人意得				9	客人着座之事 附座敷之団	8/10~12	池坊短期大学	14名
	3	客人路地入之事 附貴人相伴				10	客人座中意得作法事	9月	大東文化大学 1-0508 教室	16名
	4	客人案内亭主遊之事 附客人作法				11	墨蹟掛蓋惣而床置物事	10月		
	5	客人路地意得雪隠戸開見事	5月 毎週火曜			12	客人着座亭主出事 附挨拶	11月		
	6	客人手水之事 附貴人相伴				13	客人諸員営事 附歳	12月	大東文化会館404	
	7	貴人相伴作法之事 附扇	5/5, 5/6	専攻学院/ソルボンヌ大学	16名					
【備考(刊行物等)】『茶講』巻八注釈(2016年3月21日刊行)										
イラン文化圏における伝統と変容の研究 ―フィールド調査資料の再考―										
No.	研究テーマ(発表・演題等)	開催日時	開催場所	聴衆						
第8班	1	「紛争影響下におけるアフガニスタン農村社会と中央政府」(林 裕)	5月24日	大東文化会館	8名					
	2	後藤晃編 2015「オアシス社会50年の軌跡——イランの農村、遊牧そして都市」 (お茶の水書房 2015年3月刊) 出版・書評会 ①後藤晃「オアシス社会50年の軌跡——イランの農村、遊牧そして都市」 ②原 隆一「イラン革命とイスラーム農地改革—1978-1988年—」 ③南里浩子「遊牧民定住村40年のあゆみ」 ④アブドリ・ケイワン「大土地所有制の変遷とイランの階級的特徴」	7月25日	大東文化会館	15名					
	3	①林 裕「戦争影響下の農村生活の在り様——アフガニスタンにおける外部者と内部者の視点から」 ②齋藤正道「近代イランにおける国民精神をめぐる政治的言説の系譜——イスラーム共和国における「ソフトな戦争論」から、キャスラヴィーのイラン国精神批判まで——」	11月22日	大東文化会館	12名					
	4	①吉田雄介「フィールドワークの可能性と限界——手織物生産の事例から——」 ②鈴木珠里・中村菜穂「ターヘリー著「イランにおける女性の口承伝承」についての紹介と批判的検討」	1月24日	大東文化会館	10名					
【備考(刊行物等)】『東洋研究』掲載(198号;林 裕)(198号;齋藤正道) 東洋研究所国際交流講演会(2016/2/20 アブドリ・ケイワン)										
岡倉天心(覺三)にとっての「伝統と近代」										
No.	研究テーマ(発表・演題等)	開催日時	開催場所	聴衆						
第9班	1	岡倉天心をめぐる近著の合評会(岡倉天心研究会「朝の会」との共催)	7月26日	大東文化会館	9名					
【備考(刊行物等)】										
南アジアにおける社会変動と文化変容：周辺からのアプローチ										
No.	研究テーマ(発表・演題等)	開催日時	開催場所	聴衆						
第10班	1	片岡弘次「パキスタンの文学について」	5月11日	東松山第2研究棟 3階会議室	8名					
	2	篠田 隆「インドの食文化と後進階級」	7月23日	東松山第2研究棟 3階会議室	7名					
	3	①須田敏彦「ネパールからの出稼ぎと自然災害」 ②井上貴子「南インドのキリスト教徒とアイデンティティ」 ③石田英明「インドのヒンディー文学運動とタリト」	9月29日	東松山第2研究棟 3階会議室	8名					
	4	国際会議 テーマ:「南アジアにおける社会変動と文化の変容——周辺からのアプローチ——」 Social Transformation and Cultural Change in South Asia —— From the Perspective of the Socio-Economic Periphery —— ①Achyat Yagnik (Founder-Secretary,SETU)「後進階級と政治社会運動」 ②H.R.Venkatesha (Director,Acharya Bangalore B School)「貧困層への融資政策」 共催:大学院アジア地域研究科、現代アジア研究所、大東文化大学東洋研究所、 東京外国語大学、Acharya Bangalore B School	11月13日 ~ 11月14日	東松山管理棟 3階 大会議室	40名					
【備考(刊行物等)】『Social Transformation and Cultural Change in South Asia』(篠田、井上、須田編)(2017年度刊行予定)										

## 〔国際交流講演会〕 激動の中東とイランの变革：

### イランは「フツウ」の国になれるか

神奈川大学アジア研究センター アブドリ・ケイワン

2016.2.20 (土) 15:00 ~ 於：大東文化会館 K-401 研修室

テロ、内戦や政情不安で苦悩する中東では、イランは政治的に安定しているように見える数少ない国の一つである。しかも最近、長く対立事項となっていた核開発問題においてアメリカを初め主要国との間に合意に達し、国際的な孤立も終焉しつつある。しかし今後、イランは国際社会と歩調を合わせ中東地域の安定化に力を貸すかどうか大きな課題である。なぜかと言うと、大衆革命によって誕生したイラン・イスラーム共和国という政治体制は国内において社会の「イスラーム化」を、そして地域において米国を中心とする地域の秩序に取って代わるオルタナティブな秩序体制の形成を目指しており、「フツウ」な体制ではないからである。

イスラーム共和国という政治体制が1980年代後半に定着した時期から、早くも体制の「フツウ化」を目指した勢力は政治エリートの中から出現した。しかし彼らに対してこの体制のイデオロギー的特徴を重視する保守勢力は立ちほだかり、本質的な変化を阻止しようとした。イランは今後進む方向が、現在も進行中である「変化を求める勢力」(変革派)と「現状維持を求める勢力」(守旧派)の間の勢力均衡と闘争の結果で決まると言える。いずれの勢力は聖職者、軍(革命防衛隊)幹部、官僚、大企業家や大手メディア経営者等からなる支配層の一部の支持を得ているが、支配層だけをみれば守旧派に対する支持の方が強い。しかし逆に国際社会も国内の市民社会も本格的な変化に対する応援が圧倒的に多い。

歴史的にみれば、イランにおける变革の運動は「改革派」という政治勢力が1997年に大統領選に勝ったことに端を発し、その後も变革を巡る闘争は一進一退しながら続いてきた。

ハータミー大統領(1997年～2005年)時代の



前半では政治改革が進み対外関係も改善したが、この変化は定着する前に2001年頃から守旧勢力は巻き返しを図り、とくにアフマディーネジャード大統領(2005年～2013年)は「革命の原点への回帰」の名の元で保守的な政策を強行した。そこにはアフガニスタン戦争やイラク戦争等地域の不安定化や原油価格の高騰も大きく影響した。

2013年に誕生した「変革派」のロウハーニー政権は、ハータミー元大統領と比べて、政治改革よりも経済の安定化や対外関係の改善を目指し、実際に核問題の解決という大きな成果を挙げることができた。しかしロウハーニー大統領と彼を支持する勢力が他の分野における変化の実現にも同様に成功できるかどうかは不透明である。現在の勢力均衡をみれば、まだ「本格的な変化」に反対する守旧勢力の方はかなり優位な立場に立っている。彼らは議会、軍、司法、大手メディア等を支配し、最高指導者の支持も得られている。これに対して、「変革派」のロウハーニー政権は国民による支持が厚く、主要国など国際社会の応援も受けている。ロウハーニー政権は今後、経済改革と対外関係の改善に力を入れることに間違いはないが、真剣に政治改革に取り込むことが難しい。上の勢力均衡図は大きく転換しない限り、ロウハーニー政権下の本格的な変化(=イランのフツウ化)はかなり限定されるものになるだろうと言える。

## ■人事

## 兼任研究員に委嘱

【新任】江崎隆哉、王宝平、星山幸子、吉田雄介  
アブドリ・ケイワン、小尾淳（6名）

（期間：2016年4月1日～2020年3月31日）

## ■名簿

## 東洋研究所管理委員会委員（9名）

中林 史朗（所長・兼任研究員 文・中国学科 教授）  
山田 準（東洋研究所専任研究員）  
岡崎 邦彦（東洋研究所専任研究員）  
日吉 盛幸（兼任研究員 文・日本文学科 教授）  
宮瀧 交二（兼任研究員 文・英米文学科 教授）  
篠永 宣孝（兼任研究員 経・社会経済学科 教授）  
田辺 清（兼任研究員 国・国際文化学科 教授）  
原 隆一（兼任研究員 国・国際文化学科 教授）  
鹿 錫俊（兼任研究員 国・国際文化学科 教授）

## 専任研究員（4名）

山田 準 教授（東西交渉史・貿易史）  
岡崎 邦彦 准教授（中国政治経済）  
小林 春樹 准教授（東洋暦学）  
田中 良明 講師（中国思想史）

## 兼任研究員（25名）

日吉 盛幸（文・日本文学科 教授）  
浜口 俊裕（文・日本文学科 准教授）  
中林 史朗（文・中国学科 教授）  
村井 信幸（文・中国学科 准教授）  
小塚 由博（文・中国学科 特任准教授）  
宮瀧 交二（文・英米文学科 教授）  
篠永 宣孝（経・社会経済学科 教授）  
高安 雄一（経・社会経済学科 教授）  
葛目 知秀（経・社会経済学科 講師）  
C.W.シュパング（外・英語学科 准教授）  
齋藤 俊輔（外・英語学科特任講師）  
藏中しのぶ（外・日本語学科 教授）  
田中 寛（外・日本語学科 教授）  
齋藤 哲郎（法・政治学科 教授）  
中村 昭雄（法・政治学科 教授）  
篠田 隆（国・国際関係学科 教授）  
内田 知行（国・国際関係学科 教授）  
柴田 善雅（国・国際関係学科 教授）  
滝口 明子（国・国際関係学科 教授）  
須田 敏彦（国・国際関係学科 教授）  
田辺 清（国・国際文化学科 教授）  
石田 英明（国・国際文化学科 教授）  
井上 貴子（国・国際文化学科 教授）  
原 隆一（国・国際文化学科 教授）  
鹿 錫俊（国・国際文化学科 教授）

## 兼任研究員（35名）

相田 満（国文学研究資料館准教授）  
芦川 敏彦（浜松学芸中・高等学校非常勤教諭）  
鏡屋 一（目白大学外国学部教授）  
安保 博史（群馬県立女子大学教授）  
池田 久代（皇學館大学教授）  
伊藤 一彦（中国研究所理事）  
上野 英詞（防衛研究所 元・図書館長）  
植松 希久磨（大東文化大学非常勤講師）  
岡倉 登志（大東文化大学名誉教授）  
岡本 佳子（国際基督教大学準研究員）  
片岡 弘次（大東文化大学名誉教授）  
小坂 眞二（陰陽道研究者）  
小林 龍彦（前橋工科大学教授）  
斉藤 正道（東京外国語大学非常勤講師）  
佐藤 志乃（立教大学兼任講師）  
嶋 亜弥子（元・在中国日本大使館経済専門調査員）  
鈴木 珠里（大東文化大学非常勤講師）  
関 清孝（埼玉県立伊奈学園総合高等学校教諭）  
高木 ゆみ子（パリ・東アジア文明研究センター研究員）  
中村 聡（玉川大学教授）  
中村 士（帝京平成大学 元・教授）  
中村 菜穂（大東文化大学非常勤講師）  
南里 浩子（東京国際大学非常勤講師）  
林 裕（関西学院大学人間福祉学部助教）  
福田 俊昭（大東文化大学名誉教授）  
細井 浩志（活水女子大学教授）  
三田 明弘（日本女子大学人間社会学部文化学科教授）  
矢ヶ崎善太郎（京都工芸繊維大学准教授）  
山下 克明（国際日本文化研究センター共同研究員）  
由川 稔（ベネフル総合研究所企画部マネージャー）  
依田 徹（大宮益哉美術館学芸員）  
渡邊 義浩（早稲田大学教授）  
F.R. ジラルール（フランス極東学院教授）  
M.C. ミリオール（イタリア国立サレント大学教授）  
C. ラフィン（ブリティッシュ・コロンビア大学准教授）

## 特別兼任研究員（7名）

生田 滋（大東文化大学名誉教授）  
小島 麗逸（大東文化大学名誉教授）  
近藤 邦康（東京大学名誉教授）  
進藤 英幸（無窮会 / 東洋文化研究所名誉所長）  
中島 宏（中国研究所研究員）  
成田 守（大東文化大学名誉教授）  
濱 久雄（無窮会専門名誉図書館長）

## 事務室（2名）

事務長 横山 美智子  
梓島 康索

## 東洋研究所の理念・目的

東洋研究所の起源は1921年の貴・衆両院による「漢学振興二関スル建議案」の決議に由来する。この背景にある基本的理念は、①漢学を中心とする東洋学術の研究、②東西文化の融合による新しい文化の創造をめざすことにあった。

この理念実現の推進母体として1923年大東文化協会が創設され、研究組織として、①漢学を中心とする東洋学術の研究部門として東洋研究部を、②東西文化の融合による新しい文化の創造をめざす比較研究部を設け、教育機関として大東文化学院を設立した。

この二つの研究部は1953年学校法人大東文化大学付属大東文化研究所に継承され、1961年学校法人大東文化学園の振興計画の一環として、新たに「東洋研究所」として過去の①・②の理念を継承している。

東洋研究所の目的は、学則第6条に基づく大東文化大

学東洋研究所規定によって定められ、「アジアを中心とする人文・社会・自然の科学的調査研究を行い、広く学術の発達に寄与すること。」とされている。

当初、研究局第一部人文科学系と第二部社会科学系の2組織がおかれ、その後専任研究員の就任に伴い人文科学班、政治・経済班、国際関係班の3班に分かれての研究活動に入った。

時代の要請に従い個人研究はもとより、学際的・総合的共同研究の重要性を強調し、学際的メンバーによる研究部会を設け、研究成果を学術雑誌「東洋研究」に掲載するとともに、刊行物を発行し世に成果を問うている。また、研究成果を地域社会への還元として公開講座を開催し、国際交流の一環として、外国人講師による講演会等学術の発達に寄与することを目的に活動している。

(2014年7月)

## 2015年度 東洋研究所会議報告

### ■管理委員会

①日時：2015年5月6日（木）10:40～

場所：東洋研究所共同研究室

〔議案〕

1. 故兵頭教授研究室の図書資料の取り扱いについて
2. 東洋研究所 予算に関する事項について
3. 2015年度 東洋研究所公開講座の実施について
4. 2015年度 東洋研究所出版計画について
5. 2015年度 東洋研究所の事業計画に関する事項について
6. 2015年度 東洋研究所の共同研究計画書について
7. 「東洋研究」第200号について
8. 「東洋研究刊行物の発行および配付内規（改定案）」について

②日時：2015年11月4日（水）10:30～

場所：東洋研究所共同研究室

〔議案〕

1. 「東洋研究」並びに刊行物の進捗状況について
2. 村井先生研究室分置図書返却並びに蔵書点検について
3. 2016年度 共同研究計画書（案）について
4. 2016年度 東洋研究所 出版計画について
5. 2016年度 予算積算について
6. 東洋研究所研究員（兼任研究員）の人事について
7. 東洋研究所の理念・目的の見直しについて
8. 東洋研究所内規集について
9. 2015・2016年度 公開講座の実施について
10. 2015年度 研究所活動報告会、国際交流（講演会）の実施について

11. 2015（平成27）年度 私立大学等経常費補助金特別補助に係る調査について

③日時：2016年2月20日（土）12:00～

場所：大東文化会館 K-0302 研修室

〔議案〕

1. 東洋研究所刊行物の発行状況について
2. 研究活動報告会および国際交流講演会について
3. 認証評価草案について
4. 松方家資料について
5. 管理委員会委員の承認と補充について
6. 2016年度 会議日程について
7. 東洋研究所兼任研究員の許諾状況について
8. 「東洋研究」投稿規程について
9. 「東洋研究所規程」改正について
10. 図書資料のデータ化について

### ■所内会議（於：東洋研究所共同研究室）

2015年 4月16日（木）	2015年 4月23日（木）
2015年 5月21日（木）	2015年 6月18日（木）
2015年 7月23日（木）	2015年 9月17日（木）
2015年 10月15日（木）	2015年 11月19日（木）
2015年 12月 3日（木）	2016年 1月14日（木）
2016年 2月18日（木）	2016年 3月17日（木）

### 所内ディスカッション（於：東洋研究所共同研究室）

2015年 6月11日（木）	2015年 7月12日（木）
2015年 7月16日（木）	2016年 1月14日（木）

## 新刊案内

### 『藝文類聚』(巻89) 訓讀付索引

大東文化大学東洋研究所「藝文類聚」研究班 代表 中林史朗

2016年2月25日発行/B5判 82.37頁/ISBN978-4-904626-22-1/頒価¥4,000(税別)

『藝文類聚』は中国の類書の中でも早い成立に属する類書で、日本文学への影響は計り知れないものがある。本書はその『藝文類聚』を巻ごとに訓讀文を施し、四部叢刊に採録されている作品については校異を付し、最後に利用者の便を考慮して重要語彙索引を掲載したものである。巻89は、「木部下」の楊柳 檉 椒 梓 桂 楓 豫章 無患 朱樹 君子 樅 檜 茶英…等を収録している。

### 『茶譜』巻8 注釈 蔵中しのぶ編

相田満, 安保博史, フレデリック・ジラル, 佐藤信一, 高木ゆみ子, 三田明弘, 矢ヶ崎善太郎共著

2016年3月21日発行/B5判 272頁/ISBN978-4-904626-25-2/頒価¥12,000(税別)

『茶譜』全18巻は、茶道流派の生成がさし始めていた寛文年間(1661~1673)頃の成立とされ、茶道全般におよぶ総合的な類聚編纂書である。各項目について、千利休流・小堀遠州流・古田織部流・金森宗和流等、流派のちがいを対照的に提示しつつ、茶の湯や茶室にかかわるさまざまな記事を類聚編纂した茶道百科事典ともいべき性格を備えている。

〔既刊〕巻1~巻7

### 『天文要録』の考察〔二〕 小林春樹編集代表

2016年2月25日発行/B5判 97, 2頁/ISBN978-4-904626-23-8/頒価¥4,000(税別)

初唐高宗の麟徳元年(664)に、李鳳によって撰述された天文占書である『天文要録』は、つとに中国では散逸し、日本の尊経閣文庫に、計26巻が伝わる佚存書である。

本書は、その第二冊(巻四)「日占」の前半を翻字したうえで、訓讀文、現代語訳、語釈・参考文献、余説を施したものである。

### 『西安事変と中国共産党—西安事変80周年』 岡崎邦彦著

2016年2月25日発行/A5判 317頁/ISBN978-4-904626-21-4/頒価¥3,000(税別)

本年(2016年)12月、中国では西安事変80周年を迎える。筆者は、2006年から10年間の西安事変研究を経て、『西安事変と中国共産党—西安事変80周年』を上梓した。

これによって事変後80年目にして、間に覆われていた事変の真相をようやく明らかにすることができた。いったい誰が、事変の真相が暴かれることを邪魔していたのか。

詳細は本書にてご高覧あれ。

### 『インドア領の成立とポルトガル人の定住—ポルトガルのアジア進出史の再検討』

齋藤俊輔著

2016年3月23日発行/A5判 244頁/ISBN978-4-904626-20-7/頒価¥3,000(税別)

従来、ポルトガルのアジア進出史は、交易をめぐる争いの歴史として描かれることが多かった。本書はそれとは異なり、ポルトガル人そのものに焦点が当てられる。中心となるのは、彼らがどのようにアジアにやってきて、そして定住したのかという問題である。

本書では、ポルトガル人の定住が基本的にはインドア領を通じた現象でありながら、ディアスポリックな性質を持ったことが明らかにされる。

### 『岡倉天心—明治国家形成期における「日本美術」』 大東文化大学東洋研究所・岡倉天心研究班

(正式名称: 岡倉天心(覚三) にとっての「伝統と近代」) 代表 田辺 清

2016年3月11日発行/B5判 77頁/ISBN978-4-904626-24-5/頒価 ¥5,000(税別)

本書は2012年4月に発足した「天心研究班」の研究発表を二冊目のものである。天心を曾祖父に持つ岡倉登志大東文化大学名誉教授の論考を筆頭に6名の研究者が各自の専門性を生かしながら天心研究の更なる考察の方向を模索している。今回は天心の多彩な才能を明治期の日本美術を中心に分析しているが本書で生じた課題を新たな視点から次の段階で展開していくことも既に検討しはじめている。

この他の東洋研究所刊行物についてはホームページをご覧ください。

#### 刊行図書取扱店

■池上書店(大東文化大学板橋校舎内)  
〒175-8571 板橋区高島平1-9-1  
TEL (03) 3932-7567

■進明堂(大東文化大学東松山校舎内)  
〒355-8501 埼玉県東松山市岩殿560  
TEL (0493) 34-4430

■汲古書院  
〒102-0072 千代田区飯田橋2-5-4  
TEL (03) 3265-9764

## 2016年度 東洋研究所 公開講座のお知らせ 「アジアの民族と文化」

主催：大東文化大学 東洋研究所

日程・テーマ・講師	講義概要
<p>11月10日(木) 13:00～15:00 現代イランの詩を読む ～20世紀の文学的潮流と 言語芸術の試み～ 東洋研究所 兼任研究員 大東文化大学 非常勤講師 中村 菜穂</p>	<p>ペルシア文学といえば、日本ではオマル・ハイヤームの『ルバイヤート』やフェルドウシーの『王書』が親しまれています。また『千夜一夜物語』を思い浮かべられる方も多いかもかもしれません。そうした文学的伝統のあるイランで、現在はどんな詩が詠われ、あるいは読まれているのでしょうか。深い悲哀を詠った詩から、愛の詩、人生への思索や軽快なユーモアの表れた詩まで。</p> <p>この回では、20世紀イランに現れたいくつかの新しい詩の潮流を概観しつつ、激動の社会を生きる人々の心の内面に迫ってみたいと思います。</p>
<p>11月17日(木) 13:00～15:00 タゴール・天心の思想から見る 「アジアの民族と文化」 東洋研究所 兼任研究員 大東文化大学 名誉教授 岡倉 登志</p>	<p>アジアで初のノーベル賞受賞者タゴールは、インド亜大陸のインドとバングラデシュの国歌作詞者である。ベンガル・ルネッサンスとタゴール・天心の関係をみてみたい。</p> <p>民族と文化の問題は、現代のアフリカの紛争にも関係しており、自衛隊が出動するので、演者の専門であるアフリカの問題とも比較したい。</p> <p>参考文献 岡倉覚三(天心)『東洋の理想』(岩波書店、講談社などの訳書) 岡倉古志郎「天心とベンガルの革命家たち」『東洋研究』第81号 岡倉登志『世界史の中の日本：岡倉天心とその時代』明石書店</p>
<p>11月24日(木) 13:00～15:00 西安事変80周年、その真相を語る 東洋研究所 専任研究員 大東文化大学 准教授 岡崎 邦彦</p>	<p>2016年12月、中国は西安事変80周年を迎える。私は2006年から10年間の「西安事変」研究を経て、本年2月、『西安事変と中国共産党——西安事変80周年——』を大東文化大学東洋研究所より上梓した(取扱店：東方書店、池上書店など)。</p> <p>事変後80年目にして、闇に覆われていた事変の真相を、ようやく明らかにすることができた。いったい誰が、事変の真相が暴かれることを邪魔していたのか。</p> <p>当日は、その真相に迫っていく。</p>

■受講料：1回 500円(各回当日支払)

■会場：大東文化会館 3階 K-302 研修室

■定員：50名(先着順)

■交通：東武東上線「東武練馬駅」下車徒歩3分

■受付期間：11月4日(金)まで(消印有効)

【問合せ先】大東文化大学 東洋研究所

TEL：03-5399-7351 FAX：03-5399-8756 E-mail: tokenji@ic.daito.ac.jp

### ※ 注意事項

- ・受付は先着順とさせていただきます。
- ・駐車・駐輪はできません。お車、バイク、自転車でのご来場はご遠慮ください。

大東文化大学 東洋研究所 所報 No.65

2016年6月30日発行

印刷：(株)東京技術協会

編集・発行 大東文化大学東洋研究所

〒175-0083 東京都板橋区徳丸 2-19-10

TEL (03) 5399-7351 FAX (03) 5399-8756

E-mail: tokenji@ic.daito.ac.jp

URL <http://www.daito.ac.jp>